

地域おこし協力隊活動実績報告書

隊員氏名：大矢 伸治

- ・活動期間： 平成31年 4月 1日～令和2年3月31日  
 (委嘱日： 平成29年 10月 1日)

1. 隊員の活動テーマ

活動テーマ	定住促進
より具体的なミッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まつりなど地域の伝統を、人脈やスキルを生かして後世につなげていく。</li> <li>・地域活動のノウハウをシェアリングし、より良くしていく。</li> </ul>

2. 活動の検証

(1) 定住促進への直接的効果

移住等の相談を受けた件数	5件 ( 5人)
移住希望者に現地案内などの活動を行った件数	13件 ( 10人)
うち移住につながった(つながる可能性のある)人数	3件 ( 13人)
具体的な相談の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上げ松法被プロジェクト：法被を製作したことによって、「来年は帰ってきて上げ松に参加する」という声を聞くことができた。すぐに定住につながるわけではないが、地元を出た方に対して、今後につながる良い影響を与えることができた。</li> <li>・南丹市 PR 動画配布：地元を出た同級生やつながりのある方へ南丹市のPR動画を配布した。</li> <li>・移住セミナー：「現在も南丹市に通っているが、より深く関係性を築くために何をすればいいのかわかりたい」「シェアハウスなどを知りたい」</li> <li>・全国協力隊サミット：「南丹市の協力隊の制度を知りたい」「空き家バンクはどのようにしたら見れるのかわかりたい」「南丹市の取組について知りたい」</li> </ul>

<p>今後の展開や展望または反省点など</p>	<p>地元出身という立場から、自分の活動が自分と同じ立場の人に影響を与えることができると考えている。具体的に、南丹市から転出した方、その中で地元に戻りたいがどのようにすればよいかわからない方だと思う。地元への帰り方ではなく、地元とのつながり方を自らの活動で見せていければと考えている。地域のイベントに参加したり、家族をもって生活したり、自分の思う地域とのつながり方を SNS での発信やイベント参加の呼びかけを行うことで、同じ立場の方の地元を考える一つのモデルになりたい。その生活のモデルになる人が一人でも増えるようにすることでその効果はもっと広く波及すると考える。</p> <p>自分のように地元に戻ってくる U ターンの人をメインに定住促進を進めていきます。</p>
-------------------------	---

(2) 具体的な活動について

<p>活動を展開した地域数と名称</p>	<p>地域数： 18 地域          地域の名称：(鶴ヶ岡 (今宮、栃原、砂木、棚、川合、殿、舟津、松尾、名島、神谷、洞、田土、上吉田、林、庄田、脇、熊壁、山森))</p>
<p>移住者受け入れや地域振興への意識が高まったと思われる地域数と名称</p>	<p>地域数： 18 地域          地域の名称：(鶴ヶ岡 (今宮、栃原、砂木、棚、川合、殿、舟津、松尾、名島、神谷、洞、田土、上吉田、林、庄田、脇、熊壁、山森))</p>
<p>今後継続的なアプローチにより意識が高まる見込みの地域数と名称</p>	<p>地域数： 18 地域          地域の名称：(鶴ヶ岡 (今宮、栃原、砂木、棚、川合、殿、舟津、松尾、名島、神谷、洞、田土、上吉田、林、庄田、脇、熊壁、山森))</p>

活動内容	現在の課題	期待する成果・展望
<p>「鶴ヶ岡 集落生活の手引き」の製作に関わらせていただいた。今後も更新し続ける冊子なので、都度主体的に参画できたらと思う。</p>	<p>鶴ヶ岡には 18 区もあるので、各區で取組の温度差がある。</p>	<p>手引きをつくることによって、他の区同士が意識し、少しでも各區の取組に活かしてもらえるようにする。</p>

<p>2年目のあぜみちファッションショーは、鶴ヶ岡 舟津で行なった。京都市内のテキスタイルブランドやアフリカ生地を使用したファッションブランドに無償提供していただき、冊子製作も行なった。</p>	<p>今後、続けていく上でスタッフ、出展ブランドにボランティアや無償をお願いするには、限界があるように感じている。</p>	<p>ファッションに興味のある方が地方に興味を持ってもらうように、内容をまとめた冊子をイベントごとに製作し、イベントの集客にもつなげる。</p>
<p>地元（美山）で採れた鹿革の使用したプロダクトを考えている。現段階は、自転車の国体などが行われている理由から、自転車のサドルの製作を行なった。</p>	<p>自転車のサドルは嗜好品なので、ニーズも小規模である。</p>	<p>東京でのイベントに持っていったところ、ブースを訪れたほとんどの方に興味を持っていただくことができた。また自転車販売店に持ち寄り、意見を聞いたところ、クラウドファンディングが良いのではとのことだったので取り組んでいく。</p>
<p>鶴ヶ岡の夏の風物詩である「上げ松」を行う3地区のうち殿地区で、法被の製作を行なった。1段階目として、若い人たちに製作し着用してもらった。</p>	<p>殿地区だけに留まっている。</p>	<p>1段階目は若い人に着ていただき、祭り当日にお披露目することができ、全体に承認をいただいたので、次は地区全員の方に製作を行う。法被を製作することによって、より祭り感が出て、祭りを継続継承していくためのアイテムになった。</p>

### 3. 活動表

活動年	実績・効果、目標
1年目	<p>目標：地元出身でも知らないことが多いので、様々なことに興味を持ち、南丹市の知識を増やしていく。</p> <p>結果：「ちらしやさん」の活動を通じて、南丹市内のイベントに出店し、南丹市の良さを知ることができた。また、先輩協力隊員との共同プロジェクトを行い、地域との関わり方を学んだ。</p>
2年目	<p>目標：地域を活かした商品開発やイベントの実施を行い、都会に出た地元出身者や移住を考える方へ、南丹市をPRする。</p> <p>結果：南丹市に住む住人に目を向けた「じゅうにん展」を京都市内で実施したり、田舎の原風景とファッションを融合させた「あざみちファッションショー」を催行したりと地域の人や場所を活かしたイベントを行うことで、田舎の良さを伝えることができた。また、上げ松の法被を製作し、実際に祭りで着ることで、地元出身者へ「田舎に帰ってきたい」という思いが芽生えるきっかけをつくれた。</p>
3年目	<p>目標：「地域を活かした取組から、定住と自分の生業につなげる」</p> <p>残り1年を切った任期になり、より一層協力隊の取組から、個人の取組に移行していこうと考えている。その中心が鹿革のプロダクト製作であり、1年目は製作依頼、2年目は製作を行なった。3年目は、販売していく予定である。鹿革を使用することで、獣害に取り組まれている方にお金が落ちて、さらに獣害対策に取り組んでもらうことが可能だと考える。また、協力隊の媒体や各取組のデザイン的な部分に介入し発信をしていきたい。多くの方の目に留まるものを製作することで、興味を持っていただき、定住につなげていきたい。</p>
任期後に得たい成果・変化（自分自身・地域・関係者）	<p>地域で行うものづくりやイベントの質が上がれば、自然と地域が盛り上がることを考えているので、自分はお願いされたものをしっかり作り続けていき、信用をしてもらえるよう活動していく。</p>